



審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

## 1 開会あいさつ

### □司会者（政策企画室）

司会者から次の案内を行った。

- ペーパーレス化を推進するため、資料配布は手元の PC にて行わせていただく
- 配布資料の確認
- 会議録作成について

### □辻市長

（市長挨拶）

## 2 委員の紹介

### □司会者

司会者から委員紹介、事務局職員の紹介を行った。

## 3 委員長、副委員長の選出

委員互選により、辻本委員が委員長に、中尾委員が副委員長に就任した。

## 4 案件の諮問

市長から委員長に対し、諮問書が手交された。

（市長、別の公務のため退席）

## 5 会議・評価の進め方等について

### ■辻本委員長

次第5に従って、会議・評価の進め方について確認する。事務局から説明願う。

### □事務局（政策企画室）

（事務局説明）

（質疑応答を行ったが、委員から質疑はなかった）

## ■辻本委員長

では、事務局案にて進めるものとする。続いて、評価方法について、事務局から説明願う。

## □事務局（政策企画室）

- 地方創生関係交付金の対象事業に関しては外部有識者による効果検証が求められており、毎年度国に対象事業が「有効であった」か「有効でなかった」のか2者択一での報告が求められる。
- 委員の皆様には、「令和4年度に実施した事業が、翌年度のKPIの達成に期待できるかどうか」という観点から、「1」から「4」の4段階評価をお願いしたい。

（質疑応答を行ったが、委員から質疑はなかった）

## ■辻本委員長

質問等ないため、事務局案にて進めることとしてよいか。

（「異議なし」の声あり）

## 6 評価対象事業の概要説明

### ■辻本委員長

次第6に従って、「評価対象事業の概要説明」に移る。

#### （1）道の駅いずみ山愛の里施設活性化事業

### ■辻本委員長

「道の駅 いずみ山愛の里 施設活性化事業」について説明願う。

## □事務局（政策企画室）

（資料3-1について報告）

## □事務局（産業振興室）

資料4-1-1に基づいて以下を説明。

### 1. 事業の背景・経過

- リニューアル前の販売所は、荷捌場がなく、十分な品揃えや出品数の確保が困難であった
- 来訪者の大半は50歳代以上の方で、購買力の強い子育て世代の利用が少ない
- 道の駅の運営を同一敷地内の「南部リージョンセンター」の指定管理者が担っており、農産物直売所の運営に関して十分な実績やノウハウを有していない

### 2. 取組内容

#### 令和3年度の取組

- ハード面は、荷捌場を備えた販売所の建設及び子育て世代をターゲットとした複合遊具の設置等のリニューアル工事を実施した。
- ソフト面は、道の駅の運営体制の見直しを行い、道の駅単体で指定管理者の公募を実施した。農産物等のノウハウ及び販売実績のある事業者を指定管理者として選定した。

#### 令和4年度の取組

##### <来訪促進>

- 道の駅リニューアルオープンイベントをはじめとする、施設の周知・PR に関する取組を実施した。本市 PR 大使である「紅しょうが」を起用し、「広報いずみ」での特集やおすすめ情報コーナーの連載、「和泉でしょうが」等の TV 番組、雑誌への掲載、インスタグラム等 SNS を活用した周知・PR 活動を行った。また、道の駅出荷者からなる出荷協力会と指定管理者の共催により、市内の四季折々の旬の農産物等を PR するために「四季の味覚祭」を行った。

##### <販売促進>

- 市内農産物の売上増進を図るため、市内農産物を使ったオリジナル商品を充実させ地場製品の魅力を発信した。(山愛ドレッシング、みかん 100%ジュース、ねぎキムチ、クラフトビール等)
- 学校法人村川学園の取組である「泉州美食エキスポ」との共同企画として、大阪製菓調理専門学校の学生による「和泉みかん」を使ったレシピコンテストを開催した。優秀作品を JAL 国際線ファーストクラス機内食シェフによる監修を経て、ご当地看板メニューとして完成させた。
- 府内一の産出額を誇る「みかん」を使ったケーキ「みかんどレス」、「みかんジュエリー」をご当地看板メニューとして道の駅のレストランで販売し、「和泉みかん」の魅力を広く発信した。
- 道の駅の地場産品販売所は、市内産材である「いずもく」を使用して建築されており、陳列棚を増設する際は「いずもく」を使用し、市内産材の PR を合わせて行った。

### 3. 今後の取組内容

#### 今後の取組

##### <来訪促進>

- リニューアル後に増加傾向にある子育て世代の更なる来訪促進をめざしながら、リピーターとして定着してもらえるよう、飽きられないよう新たな取り組みを検討していく。
- SNS 等を活用し、旬の農産物、新商品や新メニューなどの新しい情報を発信し続けるとともに、イベント等の開催により更なる来訪者の増加に取り組む。

##### <販売促進>

- 昨年度の販売実績を出荷者にフィードバックすることで、時期による売れ筋商品を共有し、更なる出荷量の増加・販売額の増加に繋げていく。
- 指定管理者の協力のもと、市内農産物を使ったオリジナル商品の開発を継続し、魅力ある商品を充実させていくことで市内農産物の売上増進に繋げ、施設活性化をめざす。

### 4. KPI

- 設定している3つのKPIについて、いずれも目標を達成した。

## 5. 所管課の評価

- KPI の目標値を達成していることから、令和4年度の取組は、「効果的」であり、目標を「達成」し、本事業を「継続」していくこととした。

(質疑応答)

### ■中尾委員

KPI3 の出荷点数は非常によい実績となっているが、主な要因は何か。

#### □事務局（産業振興室）

施設リニューアル前は市内産農産物や加工品のみを販売していたが、リニューアル後は市内産を主に、肉や魚、市外産農産物等を販売していることが大きく影響しているものと思慮する。

(他に質疑がなかったため、各委員による事業の評価を行った（採点表の記入）)

### ■辻本委員長

「交流拠点施設を活用したまちの賑わい創出・交流人口拡大事業」について説明願う。

#### □事務局（政策企画室）

(資料 3-2 について報告)

#### □事務局（久保惣記念美術館）

資料 4-2-1 に基づいて以下を説明。

##### 1. 事業の背景・経過

- これまで、パブリックアートの設置やアートイベントの実施など様々な取組を進めてきたが、集客効果が一過性に留まっていることが課題であった。このため、人々がアートに親しみ、アーティストやクリエイターが恒常的に活動・活躍できる場所作りとして、交流拠点施設を活用したまちの賑わい創出・交流人口拡大事業に取り組んできた。

##### 2. 取組内容

###### 令和3年度の取組

- 和泉・久保惣ミュージアムタウン内の古民家を交流拠点としてリノベーションし、アーティストやクリエイターが個展を開催できる場所をはじめ、恒常的に集える場を整備した。
- アーティストやクリエイターの活動実績などを情報発信し、企業などから受注や協業などの機会創出のためのWEBサイトを構築した。

###### 令和4年度の取組

- 古民家では、個展や演奏会、ワークショップ、セミナーなどを開催。地元食材や資源などを活用

したカフェやショップの運営に取り組む。

- 商業施設「エコールいずみ」やその周辺施設などで音楽ライブや作品発表、ワークショップなどを開催する。
- WEBサイトを活用し、壁画アート、自販機アート、アートコンクールなどのイベントやワークショップなどの参加者募集及び事業PRを実施し、アーティストやクリエイターに関わる情報発信や各イベントなどの活動実績の情報発信を行う。

### 3. 今後の取組内容

- 古民家では、個展や演奏会、ワークショップ、セミナー等の定期的な開催、地元食材や資源などを活用した魅力的なカフェやショップの運営、廃棄素材やフードロスなどの素材を活用したSDGsを意識したモノづくりに取り組む。
- 「エコールいずみ」等では、音楽ライブ、作品展示の実施、体験教室、学芸員による作品解説や版画摺り体験などの各種イベント・ワークショップの実施に取り組む。
- 情報発信の継続によるアーティスト、クリエイターの活動支援、ワークショップなどの開催を通じた文化芸術振興及びミュージアムタウンの理解・共感の増進、イベント参加者を増やすための適切な参加料の設定とコンテンツのブラッシュアップに取り組む。

### 4. KPI

- 設定している3つのKPIについて、いずれも目標を達成した。

### 5. 所管課の評価

- KPIの目標値を達成していることから、令和4年度の取組は、「効果的」であり、目標を「達成」し、本事業を「継続」していくこととした。

(質疑応答)

#### ■辻本委員長

今後の取組内容のなかで、古民家で廃棄素材やフードロス等の素材を活かしたSDGsを意識したモノづくりに取り組むとあるが、具体的にはどのような取組を行うのか。

#### □事務局(久保惣記念美術館)

白鶴酒造と連携し、梅酒造りで使用した梅を活用したグラノーラの開発を計画しているほか、「いずもく」の廃材や塗装屋の余剰塗料を活用した、打楽器「カホン」づくりワークショップを計画している。

#### ■辻本委員長

これはコンソーシアムの売上に入るという認識でよいか。

#### □事務局(久保惣記念美術館)

こちらは、古民家のショップでの事業になるため、コンソーシアムの売上には含まれない。

### ■辻本委員長

WEB 交流拠点運営事業について、継続した情報発信とあるが、具体的にはどのような取組を行っているのか。

#### □事務局（久保惣記念美術館）

クリエイター応援サイト「HATA」において、和泉市内等で活動実績を有しているアーティストやクリエイター等のプロフィールや活動実績等をPRしている。

### ■辻本委員長

活動支援されているアーティスト・クリエイターにはどのような方々がいるのか。

#### □事務局（久保惣記念美術館）

現時点では、ミュージアムタウン事業に関わっていただいた書道家、イラストレーター、ペインター、アートディレクター等の5名。

### ■山田委員

KPI3 について、令和5年度の目標値は、現状のままでは達成困難と思われるが、売上増となる具体的な計画はあるのか。また、コンソーシアムは令和5年度のKPI 達成によって、その後は自立自走できるとい認識でよいか。

#### □事務局（久保惣記念美術館）

売上増加の方策については、コンソーシアム構成員から会費の徴収を行うことや、事業に協賛いただける方から資金提供をいただくなどの仕組みづくりを検討している。

コンソーシアムの自立自走については課題も多く、令和5年度のKPI 達成によって自立自走が達成となるかは今後も引き続きコンソーシアムと協議していく必要があると考えている。

（他に質疑がなかったため、各委員による事業の評価を行った（採点表の記入））

（事務局にて各委員の点数の集計を行った）

### ■辻本委員長

「道の駅 いずみ山愛の里 施設活性化事業」の点数は次のとおりとなった。

	KPI1	KPI2	KPI3	合計
KPI 達成度について	4	4	4	12
次年度 KPI 数値について（委員の平均点）	4	4	4	12

この結果、合計が 24 点となり、100 点満点に換算すると 100 点となった。50 点以上となったため、事業評価としては、「有効」となる。続いて、各委員の評価理由やアドバイスを伺ってきたい。

### ■中尾委員

- ・ 評価理由について、休日に駐車場が混雑していることや、周辺に競合施設が多くあることなど気になる点もあるが、今年度の実績値が既に令和5年度の目標をも達成しており、民間の立場から

言っても下げようのない点数であると思い、全項目4点とした。

- 昨今はアプリなどでの情報発信も多くなっているため、様々な形で情報発信を継続されたい。
- 月に1回振りかえりを行うことは非常によいが、その方法が間違っていれば時代や流行の変化についていけず、競合にも勝てない。データ分析は非常に重要であるため、積極的にデータを活用していくべき。たとえば、単にレジ客数をカウントするだけでなく、どのような商品を購入しているのかもデータとして抽出することで、売れ筋や販売単価などの分析にもつながっていく。

#### ■大野委員

- 評価理由については、全項目とも今年度実績で令和5年度目標値以上の結果となっていることから、十分に目標値以上の達成が見込めるものと考え、4点とした。
- 今後も指定管理者と連携し、新商品開発を継続していただきたい。
- イベント時や休日には駐車場が不足しがちであることから、臨時駐車スペースや大型車両の駐車スペースの活用を検討されたい。
- トイレに温水機能付便座の設置がないなど他施設に劣る部分があると聞いている。環境整備に取り組まれたい。

#### ■山田委員

- 評価理由については、施設利用者及び出荷者の双方に効果的な取り組みができており、実績も申し分ないため全項目4点とした。
- 民間企業では、昨年度の実績を踏まえて次年度の目標を設定するのが一般的だ。今からKPIを変更することは困難とは思いますが、実績に応じた別の目標値を設定するなどして、より良い結果をめざして事業推進してほしい。

#### ■多田委員

- 評価理由については、全項目ともよい結果になっており、次年度もここから下がるようなことはないと感じたため、全項目4点とした。
- オリジナル商品はまだまだ知名度が低いように思うので、SNSなどでさらなるPRが必要だ。
- 広報番組でも道の駅の宣伝をしているが、その一場面をSNSで紹介すること等により、宣伝の相乗効果が生まれ、さらなる売上増加に繋がる。
- 現在の道の駅のInstagramはあまり魅力的なものとは思えない。新たに設置した遊具で遊ぶ人の様子や動画なども使って情報発信をするなどすれば、より魅力的なものになるのではないかと。

#### ■辻本委員長

- 評価理由について、令和4年度の実績値がすでに令和5年度目標値を達成していることから、全項目とも目標達成は可能であると判断し、全項目4点とした。
- 民間企業であれば前年度以下の目標設定をすることはないので、現在の道の駅の実力に応じた目標を別途設定して、顧客獲得に努められたい。
- 施設リニューアルによって来訪者や売上が増加することは当然であり、今後、魅力を維持できるかが課題になる。そのためにはリピーターの獲得が大切であるため、顧客の囲い込みを図っていくことが重要である。
- 近隣に競合施設が多くあるなか、山愛の里を選んでもらえる顧客を獲得できるような取組を検討



されたい。

#### ■辻本委員長

本事業に関して委員全員の評価・意見等が出揃ったため、私の方にて各委員の意見をまとめ、答申を作成させていただく。

#### ■辻本委員長

「交流拠点施設を活用したまちの賑わい創出・交流人口拡大事業」の点数は次のとおりとなった。

	KPI1	KPI2	KPI3	合計
KPI 達成度について	4	4	4	12
次年度 KPI 数値について（委員の平均点）	3.6	3.8	2.6	10

この結果、合計が22点となり、100点満点に換算すると91.7点となった。50点以上となったため、事業評価としては、「有効」となる。続いて、各委員の評価理由やアドバイスを伺っていききたい。

#### ■中尾委員

- 評価理由について、KPI1 及び KPI2 については、今後の取組によって一定数確保されていくように感じたため4点とした。KPI3 については、基本的に大きな売上は期待しにくいと感じたため3点とした。
- 古民家について、古民家運営者と出展者との関係性が4年目以降も継続していくことが重要になる。出展者側は、収益性を目的としているのか、収益ではなく地域の芸術振興を目的としているのかで異なってくると思うが、古民家運営者は収益性を目的にしていると思う。文化芸術振興のためには、収益だけを追い求めるのではなく、ボランティア的な要素も必要だと思うので、市としても古民家運営者や出展者とうまく調整されたい。
- 市としては、「この地域に出向けば、イベント等を通じて何かしらの文化芸術に触れることができる」という地域を作っていくことが目的かと思う。3年間で終わりではなく、久保惣というネームバリューや古民家という優位性をうまく活用されたい。
- 商業施設エリアの取組に関しては、和泉市のなかにも隠れた文化人はたくさんいらっしゃると思うので、そうした方を見つけて盛り上げていかれたい。

#### ■大野委員

- 評価理由について、KPI1 は現状維持により最低限80%は達成できると見込んだため、評価は3点とした。KPI2 はすでに令和4年度実績値が令和5年度目標値を上回っているため、評価は4点とした。KPI3 は、令和4年度の実績、今後の目標達成に向けた具体的な施策がないというところからみても、達成困難と思ったため、評価は2点とした。
- 美術館と古民家のそれぞれのホームページには相互の案内がなかったので、お互いのホームページにリンクをつけることを検討されたい。
- 散策マップを作製したとのことだが、そういったものもホームページ等で紹介してアピールして

いく方がよい。

- 美術館と古民家との距離は、徒歩で移動するには少し遠い気がするため、レンタルサイクル等があると利便性も向上すると思われる。
- 古民家で道の駅のオリジナル商品を販売するなど事業間の連携ができれば、売上増加や地域の活性化に繋がっていくように思う。

#### ■山田委員

- 評価理由について、KPI1及び2については実績も順調であり、期待も含めて4点とした。KPI3については、自動販売機の手数料収入以外の具体的な施策が弱いため2点とした。
- コンソーシアムの売上について、売上目標というKPI数値が妥当なものとなっているのか、自立自走に向けて令和5年度取組としてどのようなものを検討されているのかといった点が明確になっていないと感じる。
- 本事業は売上が全てではないという点は理解しているが、目標設定が低いように感じるため、そのような点もふまえて、この先も事業推進に取り組んでいただきたい。

#### ■多田委員

- KPI1については今後の伸びがあまり期待できないと感じたため3点とし、KPI2についてはリピーターがいないと利用回数も伸びないのではと感じ、3点とした。KPI3については、自動販売機の手数料収入がメインになっており、伸びが期待できないため2点とした。
- 古民家にカフェがあることは優位性があると考えており、例えば倉敷市の美観地区や京都の町屋など歴史的な街並みは学生にも人気なスポットだ。桃山学院大学の学生等にアピールすることができれば、カフェ利用から地域活性化へ繋がられる。

#### ■辻本委員長

- KPI1はアフターコロナになり人流も戻ると思われるため4点、KPI2は令和4年度実績値から達成可能と判断し4点とした。KPI3については、現状では達成困難との意見もあったが、目標を立てた以上、必達しなければならないものであるとの思いから、あえて4点とした。
- 本事業は非常にユニークであり他市と差別化できるものであるから、長期的に事業を継続できる体制づくりが大切だ。そのためにも、コンソーシアムが安定した収入を確保できる施策を検討する必要がある。例えば、ふるさと納税を活用した活動支援や、アーティストと企業をつなぐことで仲介手数料を得る方法の検討、スポンサー獲得の営業活動等、様々な方策を検討されたい。

#### ■辻本委員長

本事業に関して委員全員の評価・意見等が出揃ったため、私の方にて各委員の意見をまとめ、答申を作成させていただく。

他にご意見等ないようであれば、これにて、市長から諮問された事業評価を終了する。なお、答申（案）の作成については、委員長の私に一任いただき、後日、メール等で内容を確認していただいた上で、市長に答申したいと考えているが、よろしいか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、本委員会における事業評価はこれにて終了する。事務局から報告事項等はあるか。

□事務局（政策企画室）

事務局から、今後のスケジュール等について報告した。

- 6月中旬ごろ、委員長と相談のうえ答申（案）を作成
- その後、委員の皆様を確認いただいたうえ6月中に答申書を完成
- 7月中に委員長から市長へ答申書の手交
- 具体的な日程等は、決定次第メール等でご連絡する
- 本日の議事録についてもメール送付するのでご確認いただきたい

□市長公室長

（市長公室長 あいさつ）

□事務局（政策企画室）

それでは、これもちまして、和泉市外部評価委員会を閉会いたします。委員の皆様、長時間にわたり誠にありがとうございました。